

# Letter from Fiji

2023 年度 3 次隊 / 中谷剛 (配属先) フィジー農業水路省 水路部門

2024 年 2 月にフィジーに着任致しました中谷剛 (なかたにつよし) です。現在、農業水路省の水路部門で、政府のエンジニアの方々に、主に洪水対策に必要な技術支援を行っています。今回は、フィジーの MASI (マシ) に関するお便りです。



フィジーには MASI (マシ) と呼ばれる布があります。マシは楮 (こうぞ) の樹皮から作られます。内側の白い樹皮 tutu (トウトウ) をはがし、水に浸し、しなやかになったら叩きます。それらを何枚も重ねて、つなぎ目を木づちで叩いてしっかりと接合させて仕上げます。それを天日で干して上質な白い布に仕上げます。その後、マングローブの樹液、素焼きの粘土、または調合した煤 (すす) から得られる天然染料を使ってステンシル模様を描きます。ステンシルは、型紙の模様 (切り抜かれた部分) に色をつける技法です。

マシは高価でまた特別な工芸品として扱われます。フィジーの様々な先住民族は、それぞれ象徴的な意味を持つ独特のデザインで儀式用の衣装や衣服などを作ったそうです。現在は、お土産物としてランチョンマットくらいの大きさの布にカラフルな絵柄が染められたものも販売されています。普通の布にプリントされたものだと 10~20FJD (700~1300 円くらい) ですが、マシが使われていると高価なものは 300FJD (2 万円くらい) します。



マシの作成工程は、美濃和紙を作る工程のうち、煮熟 (しゃじゅく)、紙すき、圧搾がありませんが、それ以外の工程はよく似ていると思います。美濃和紙は紙ですがマシは布です。実はフィジーには、フィジー語はありますが独自の文字がありません。そのことが、マシが紙として加工・利用されてこなかったことに関係があるのかもしれない。「もしフィジー文字があったならフィジー和紙があったかもしれない」と思うと、同じような文化や生活の知恵が日本から遠く離れた南の島国にもあったことを知り、驚きでもあり、またうれしいような気持ちになります。